

O022-P24

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

霧島ジオパーク ~自然の多様性とそれを育む火山活動~ Kirishima Geopark - The nature diversity and the volcanic activity -

坂之上 浩幸^{1*}, 柳田 謙一郎¹, 窪田 宗摩¹
Hiroyuki Sakanoue^{1*}, Kenichirou Yanagita¹, Souma Kubota¹

¹ 霧島ジオパーク推進室

¹ Kirishima Geopark promotion Team

2010年日本ジオパークに認定された霧島山は、九州南部にある火山群の総称で、宮崎県と鹿児島県にまたがる30km×20kmの楕円の範囲に20あまりの火山と火口湖が分布しています。

有史以前から歴史時代を経て現代に至るまで、噴火を繰り返してきた活火山で、最近では2011年1月に新燃岳が中規模の爆発を起こしています。

霧島山では約34万年前に加久藤カルデラができあがった後、現在地表に見られる火山のほとんどが形成されました。高千穂峰をはじめとする成層火山や火砕丘、爆裂火口や山体崩壊、その流れ山などさまざまなタイプの火山や火口湖があり、まさに火山の博物館と呼べる地域です。古くは20万年前の火山活動により形成された栗野岳や湯之谷岳、1万7000年前に山体ができあがったあとで起きた噴火で

火口縁を吹き飛ばされた韓国岳、長門本平家物語などの文献に噴火の記録が残る新燃岳や御鉢など、その火山活動は現在も続いています。

そして霧島山の火山活動と、氷期・間氷期などの地球規模の環境サイクルの変動は、ここに多様な植生を育み、豊かな環境を作り上げました。霧島火山固有種のノカイドウやミヤマキリシマは火山性の土壌とガスに強く、他の植物に先駆けて火山地帯で生育できる植物であり、比較的火山活動が新しい山に良く見られます。

また、氷期に南九州の平地まで繁茂していたブナやミズナラ、モミ・ツガなどの温帯性の植物は、間氷期を迎えると平地では暖温帯系の植物であるカシやシイなどの照葉樹に駆逐され、霧島山では標高の高いところに取り残されました。暖温帯の広葉樹林帯から冷温帯の針葉樹・落葉広葉樹林帯への植物の垂直分布など、霧島では四季を通じて多くの植物の観察が可能です。

2011年1月末現在、新燃岳が中規模の噴火を続けており、新燃岳、中岳の植生は壊滅的な打撃を受けたと考えられますが、ここから、また植生遷移が始まります。

ポスターセッションで霧島にある自然の多様性と、それを育む火山活動とその歴史を紹介します。

キーワード: 霧島ジオパーク, ジオパーク, 植生遷移, 火山, 新燃岳

Keywords: Kirishima Geopark, geopark, shinmoe-dake Volcano